亜麻がつなぐ当別町と札幌市

第１回亜麻まつり（Ｈ 20.7.6）

一度は畑から姿を消した亜麻が、近年、健康食品として注目され、約 40 年ぶりに栽培が復活、当別町の亜麻は全国の作付け面積の 80％を占めます。
北海道の歴史的な栽培作物の復活をとおして今、札幌市民との交流が始まりました。

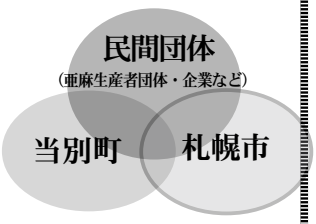
古代エジプトでは、ピラミッドの中の壁に亜麻の収穫の様子が描かれ、人類と亜麻の関わりは古いといわれています。中世以降のヨーロッパでも、木綿が普及するまで繊維といえば亜麻で、食用としても広く普及していました。

日本での普及は比較的新しく、明治時代以降となります。化学繊維が作れなかった当時、繊維事業は国策として力を入れていました。札幌市の北７条東１～７丁目あたりに、開拓使の官営亜麻工場ができ、全道に亜麻栽培が広がります。その後、工場は、民間払い下げになり、帝国繊維という会社に引き継がれました。札幌市の北７条東１丁目にテイセンボウルというボーリング場がありますが、このテイセンは帝国繊維の略称です。

当時は、当別からもたくさんの亜麻が札幌市の繊維工場に運び込まれ、両市町には古くから亜麻による結びつきがありました。ところが、昭和 40 年代、化学繊維の普及により亜麻の姿は畑から全く消えてしまうのです。

札幌市北区と連携した
亜麻の里フラワーロード事業イメージ

１当別町、札幌市北区のＪＲ学園都市線の駅前に亜麻の花を植栽する。
２当別町の亜麻まつり、北区の亜麻そばまつりを両市町が連携し住民交流を行う。



近年、当別町で栽培している亜麻の花の可憐な美しさが口コミで拡がり、多くの見学者が当別町の畑に訪れています。亜麻のフラワーロード事業を通じて、当別町と札幌市の亜麻の歴史をを改めて認識し、亜麻をテーマとした地域間の交流を進めていきます。

札幌市北区新琴似での亜麻植栽（６月１日）

亜麻の種の配布（札幌市北区新琴似）

当別駅前での亜麻植栽（６月５日）

亜麻をテーマに様々なイベントが

当別駅前には当別高校の生徒も加わり亜麻の植栽が行われました。亜麻は札幌市の亜麻を普及する市民団体からいただいた種で育てたものと、町内の亜麻生産者が育てた苗との２種類が駅前の町内案内看板（ふくろう看板）の周りに植えられました。花をつけるのは７月から９月頃となります。

亜麻生産者が中心になって開催する第２回亜麻まつりは、旧東裏小学校で７月５日に開催。60年代後半のヒット曲「亜麻色の髪の乙女」のカラオケ歌唱コンクールも企画され、当時のグループサウンズ「ビレッジシンガーズ」のボーカル、清水道夫さんが審査員を務め、自らも歌を披露する予定です。この他、亜麻に関する展示、亜麻の種子、苗の販売、亜麻そばが限定で食べられます。また、町観光協会ではバスツアーを主催し、札幌市北区市民40名が亜麻まつりを見学することになっています。

札幌市北区では９月13日（日）に麻生地区で第６回亜麻そばまつりを予定しています。主催は麻生商店街振興組合と麻生連合町内会。

麻生の町名の由来である「亜麻」をテーマとした食の祭りを行うことで、亜麻の歴史を知ってもらうとともに、麻生独自の文化発展を目指すなど、地域の活性化を目指して開催されます。

亜麻種子粉を使ったそばは、そば通をもうならせると評判になっています。また、会場では当別町の新鮮野菜も出店を予定しています。

住民や企業、生産者の活動をきっかけに、忘れ去られた亜麻が時代を超えてその価値を見直され、地域間の交流の足がかりとなりつつあります。亜麻は平成１９年度に当別町と札幌市の地域資源にも認定されており、今後も亜麻をテーマとして地域住民同士の交流の輪が広がると期待されています。

▼問合せ　企画課総合調整係　（☎23－2393）